

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立南蒲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- (低)・基礎的な問題の反復練習や具体物の操作を通して、基礎・基本の定着を図ることができた。
- (中)・習熟度に応じてスモールステップで指導をすることにより、基礎・基本の定着を図ることができた。
- (高)・習熟度に応じた指導やICTを活用した課題への取組、交流タイムの設置を通して、学習意欲が向上しつつある。

(2) 課題

- (低)・問題文の意味を読み取れずに正答できない児童が多い。
 - ・繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算の定着が不十分な児童が多い。
- (中)・自分の考えを記述したり発表したりする意欲はあるが、四則計算の定着が不十分な児童がいる。
 - ・「数と計算」の領域の習熟が不十分な児童がいる。
- (高)・自分の考えを記述したり発表したりする意欲はあるが、既習事項の積み上げが不十分な児童が多い。
 - ・「数と計算」「図形」の領域の習熟が不十分な児童がいる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	・全問を対象とする平均正答率が目標値より3.6ポイント高い。全国平均と比較して2.8ポイント、区平均と比較して0.9ポイント高い。 ・領域別では、すべて目標値を上回っている。 ・「わり算」「□を使った式」「表と棒グラフ」が特に習得できていない。	・全問を対象とする平均正答率が目標値より0.1ポイント高い。全国平均と比較して1.2ポイント、区平均と比較して3.9ポイント低い。 ・領域別では、「数と計算」、「図形」が目標値に比べて下回っている。	・教科全体の平均正答率が前年度とほぼ変わらない。達成率については約1%減少した。
第5学年	・全問を対象とする平均正答率が目標値より1.2ポイント低い。全国平均と比較して3.2ポイント低く、区平均と比較して4.1ポイント低い。 ・領域別では、「数と計算」「図形」が目標値に比べて下回っている。 ・「わり算・計算のきまり」「いろいろな形」「角の大きさ」が特に習得できていない。	・全問を対象とする平均正答率が目標値より1.8ポイント高い。全国平均と比較して1.1ポイント高く、区平均と比較して1.1ポイント低い。 ・領域別では、「変化と関係」が目標値に比べて下回っている。	・前年度より教科全体の平均正答率が約4%向上した。達成率についても約2%向上した。
第6学年	・全問を対象とする平均正答率が目標値より1.3ポイント低い。全国平均と比較して0.1ポイント低く、区平均と比較して1.9ポイント低い。 ・領域別では、「数と計算」「図形」「データの活用」が目標値に比べて下回っている。 ・「分数の計算」「割合」が特に習得できていない。	・全問を対象とする平均正答率が目標値より0.5ポイント低い。全国平均と比較して0.3ポイント高く、区平均と比較して1.3ポイント低い。 ・領域別では、「数と計算」「図形」「変形と関係」が目標値に比べて下回っている。	・前年度より教科全体の平均正答率が約3%向上した。達成率についても約5%向上した。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

(第4学年)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・平均正答率は80.5ポイントで目標値を上回っており、区平均より2.5ポイント上回っている。	・平均正答率は56.3ポイントで目標値が下回っており、区平均より5ポイント下がっている。	・全問に対する無解答率が3.9ポイントで、時刻を求める問題に関しては、13.5ポイントが無解答であった。

② 高学年
(第5学年)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・平均正答率は 67.0 ポイントで目標値が下回っており、区平均より 3.1 ポイント下がっている。	・平均正答率は 58.6 ポイントで目標値が下回っており、区平均より 0.8 ポイント下がっている。	・全問に対する無解答率が 7.6 ポイントで、小数のわり算を計算する問題に関しては、24.1 ポイントが無解答であった。

(第6学年)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・平均正答率は 66.6 ポイントで目標値が下回っており、区平均より 1.2 ポイント下がっている。	・平均正答率は 52.7 ポイントで目標値が下回っており、区平均より 3 ポイント下がっている。	・全問に対する無解答率が 8.9 ポイントで、体積の求め方を説明する記述問題に関しては、47.5 ポイントが無解答であった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◎基礎的な問題の反復練習を行う時間を設け、学習の着実な定着に繋げていく。 ・補習教室を定期的に実施し、習熟が不十分な児童に応じた学習教材を準備する。	・言葉だけではなく、図や式、表など、様々な表現方法を使って、自分の考えを伝える活動を取り入れる。 ・学習内容に適した発問を準備し、児童の考えを深めさせるようにする。	・具体物を用いたり、遊び感覚で取り組めるような学習活動を準備したりすることで、算数が楽しいと実感できるような授業の工夫をする。 ・学習の定着が不十分な児童には、個に応じてスモールステップで課題を提示し、成功体験を積み重ねることができるようになる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・習熟度に応じた授業を 3 クラス展開で実施し、個に応じたスモールステップの指導ができるようになる。 ・授業の導入において、基礎的な練習問題を授業に取り入れ、既習事項を確認する。 ◎ICTを活用し、一人一人の定着状況を把握することで、学習内容の定着を図る。 ・補習教室を定期的に実施し、習熟が不十分な児童に応じた学習教材を準備する。	・自分の考えを式や図で表現したり、言葉で説明したりする活動を積極的に取り入れる。 ・他者の考えを理解し、より分かりやすく説明したり、他者の考えに対してどのように考えたか説明したりする機会を取り入れる。	・具体物を用いるなど、操作を取り入れた学習活動を準備することで、算数が楽しい、身近なものだと実感できるような授業の工夫をする。 ・学習の定着が不十分な児童には、個に応じてスモールステップで課題を提示し、成功体験を積み重ねる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・習熟度に応じた授業を 3 クラス展開で実施し、個に応じたスモールステップの指導ができるようになる。 ・授業開始時に前時の復習問題、終末に基礎的な練習問題を取り入れ、学習内容の確実な定着を図る。 ◎ICTを活用し、一人一人の定着状況を把握することで、児童のつまづきを明確にし、指導に役立てる。 ・補習教室を定期的に実施し、習熟が不十分な児童に応じた学習教材を準備する。	・正答を導くまでの過程をどのように考えたか、自分の考えを式や図で表現したり、言葉で説明したりする活動を積極的に取り入れる。 ・他者の考えを理解し、より分かりやすく説明したり、他者の考えに対してどのように考えたか説明したりする機会を取り入れる。	・日常生活に生かすことができる活動や問題を取り入れ、算数を学ぶことの必要性や意義を実感できるように授業を工夫する。 ・学習の定着が不十分な児童には、個に応じてスモールステップで課題を提示し、成功体験を積み重ねる。